

利用者調査とサービス項目を中心とした評価手法

## 東京都福祉サービス第三者評価(2021年度) 評価結果報告書

2022年3月2日

株式会社アルファコーポレーション  
厚生労働省5号館保育室

御中

〒160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1  
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号

機構 03 - 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋

押印  
省略

以下のとおり、東京都の評価手法に沿って、評価を実施いたしましたので、報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		
	①	H0702006	
	②	H0702077	
	③	H0902065	
	④		
	⑤		
	⑥		
福祉サービス種別	認可外保育施設(ベビーホテル等)		
評価対象事業所名称	厚生労働省5号館保育室		
利用形態(複数選択可) (該当する形態を選択)	<input checked="" type="checkbox"/> 月極保育 時間預かり(一時預かり)保育		
事業所連絡先	〒	100-8916	
	所在地	東京都千代田区霞が関1-2-2 中央合同庁舎第5号館2階	
	TEL	03-3504-0015	
事業所代表者氏名	高橋 和枝		
契約日	2021年	7月	1日
利用者調査票配布日(実施日)	2021年	9月	3日
利用者調査結果報告日	2021年	11月	10日
自己評価の調査票配布日	2021年	8月	30日
自己評価結果報告日	2021年	11月	10日
訪問調査日	2021年	11月	15日
評価合議日	2021年	11月	15日
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、 補助者・専門家等の活用、第三者 性確保のための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目により行った。また調査開始時に書面の配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回収率向上にも努めた。 ・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。		

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未来に向かう「生きる力」を共に育む。</li> <li>・子どもの多様な感情を受け止める。</li> <li>・一人ひとりに応じた健やかな育ちの向けて援助する。</li> <li>・様々な体験や経験の機会を創る。</li> <li>・自分の気持ちや考えを伝えられる子ども</li> </ul>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自律ある社会人として行動すること。</li> <li>・すべてのお客様と会社のために忠誠をつくすこと。</li> <li>・人間としてお互いを尊重しあうこと。</li> <li>・快適な環境を提供すること。</li> <li>・社会的責務としての個人情報保護に努めること。</li> <li>・仕事の基本としての報連相を心がける。</li> <li>・より良い仕事のために「PDCA」の手順を意識すること。</li> </ul> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務心得として、お子さまのことを最優先で考え、安全で安心・信頼していただける保育サービスを提供すること。</li> </ul>

調査対象

調査開始時点での本園の利用世帯5(在籍児童数5)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。回収は専用封筒を用い、回答者からの弊機関への直接郵送、または同方式と事業所内回収による未開封のままの弊機関への郵送の併用にて行った。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。

利用者総数	5
利用者家族総数(世帯)	5
共通評価項目による調査対象者数	5
共通評価項目による調査の有効回答者数	5
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	100.0

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」80.0%・「満足」20.0%の計100%と高い値を得ており、設問別では「発達に配慮した保育活動」「食事」「整理整頓・清潔」「職員の対応・身だしなみ」「子どもの気持ちの尊重」など全17問中16問で80~100%の高い支持を得ている。  
自由意見では「少人数であり、目が行き届き、細やかに見てくれており、いろいろな遊びを採り入れてくれたり、先生方の雰囲気柔らかく、優しく対応してくれている。連絡帳のやり取りで子どもの様子を把握することができ、面談でも情報共有ができて、子どもの成長や家庭での子育てにつながる事ができている」「子どもに対しても丁寧な言葉遣いで、尊重してくれそうで良いと感じており、また融通が利くことも良い点だと思う」「少人数で手厚い体制の中で保育をしてくれて大変ありがたく、職員一人ひとりも皆さん優しく、子どもも楽しんで通っている」などの声が寄せられている。さらなる向上を望む意見としては柵等の安全配慮に関する事などが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育施設での活動は、子どもの心身の発達に応じたものとなっているか	5	0	0	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、有効回答者5人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は記入がなかった。				
2. 保育施設での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	5	0	0	0
有効回答者5人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は、「食育や粘土遊びなど、子どもの興味に合わせて活動をしている」の1件であった。				
3. 【保育施設からの食事提供を受けている方のみ】 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	5	0	0	0
有効回答者5人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は2件で、「概ね満足している」のほか、離乳食のステップアップのフォローや食事のおかわりについて、さらなる配慮を望む声も見られる。				

4. 保育施設の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	3	0	0	2
有効回答者3人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は記入がなかった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	3	0	0	2
有効回答者3人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は記入がなかった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	4	1	0	0
「はい」が80.0%、「どちらともいえない」が20.0%となっている。 自由意見は、「セキュリティ等はしっかりとされている。もし可能であれば柵の角等が保護されていると、なお安全かと思う」の1件であった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	2	0	0	3
有効回答者2人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は記入がなかった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育施設に信頼関係があるか	4	1	0	0
「はい」が80.0%、「どちらともいえない」が20.0%となっている。 自由意見は、「送迎時に一日の出来事について共有してくれる」の1件であった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	5	0	0	0
有効回答者5人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は記入がなかった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	5	0	0	0
有効回答者5人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は、「服装が統一されているので、子どもにとっても安心かと思う」の1件であった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	5	0	0	0
有効回答者5人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は、「小さなことでも必ず報告してくれる」の1件であった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	2	0	0	3
有効回答者2人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は記入がなかった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	5	0	0	0
有効回答者5人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は記入がなかった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	4	0	0	1
有効回答者4人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は記入がなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	5	0	0	0
有効回答者5人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は記入がなかった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	4	0	0	1
有効回答者4人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は記入がなかった。				
17. 外部の苦情窓口(行政等)にも相談できることを伝えられているか	1	1	0	3
「はい」が50.0%、「どちらともいえない」が50.0%となっている。 自由意見は記入がなかった。				

I サービス提供のプロセス項目（サブカテゴリ1～3、5～6）

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、行政機関等相談先に関する情報の提供をしている	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>園のパンフレットや、区の各種媒体などから園の情報が発信されている</p> <p>見学者には、運営法人の保育理念や保育の特徴、入所までの流れ、一日の流れや季節の行事を掲載したA4サイズのパフレットを用意している。区のホームページでは、設置経営主体や保育時間、定員や休園日、所在地や連絡先などの本園の情報を掲載したページが設けられている。また区の窓口等で配布される区の冊子「保育園・こども園等のご案内」には、本園の保育目標や保育内容、定員や保育時間等の情報が、「保育園入園の案内」には延長保育料金が掲載され、区の各種媒体からも本園の情報が得られるようになっている。</p> <p>園見学には柔軟に対応し、事業所内保育施設などの園の特徴を説明している</p> <p>見学は、保育に影響がないよう、午睡の時間帯に行っている。電話で予約を受け付け、対応する園長の都合に支障がない範囲で、申込者の都合に柔軟に対応することとしている。当日は保育室や調理室、トイレなど園内を案内するとともに、家庭的な雰囲気や一人ひとりを大切にしていることや、日頃の活動、「なかよし給食」としてアレルギー食材を使用しないメニューの運用などの園の特徴を説明している。また事業所内保育施設である本園の事業形態についても理解が得られるよう説明している。</p>		

サブカテゴリー2	
2	<p>サービスの開始・終了時の対応</p> <p style="text-align: right;">サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 <b>6/6</b></p>
<p>評価項目1</p> <p>サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している
○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている
○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している
○非該当	
<p>評価項目2</p> <p>サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している
○非該当	
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている
○非該当	
サブカテゴリー2の講評	
<p><b>入園時に利用開始にあたっての説明を行い、書面等によって同意を確認している</b></p> <p>入園が内定世帯には、個別の対応により利用開始にあたっての説明を行っている。「利用のご案内(重要事項説明書)」をもとに、保育の理念や方針・目標、保育の特徴、苦情相談窓口などの重要事項のほか、登園や園との連絡、感染症や健康管理等の保健に関する内容など、園利用にあたっての依頼事項等を説明している。準備物はわかりやすいように実際に使用している物を見せるほか、質疑応答を行い疑問点や不明点の解消を図る等の丁寧な対応に努めている。契約書や個別の書面の取り交わしによって、入園や個人情報の取り扱いに対する同意を確認している。</p> <p><b>入園時の個別面談では入園後の支援に向け、保育開始に必要な情報を確認している</b></p> <p>入園時の個別の面談では、保育開始に必要な子どもや家庭の状況を確認している。保護者から提出される「ケアカード(お子様登録書)」等を参考に、子どもの出生歴や既往症、排せつや食事などの健康状態や生活状況、発達状況を聴き取り、所定の様式に記録している。食物アレルギーや離乳食などの個別の配慮は、必要に応じて栄養士が詳細状況を確認することとしている。得られた情報は園内で共有し、子ども一人ひとりの支援に活かしている。</p> <p><b>利用の開始時や終了時の子どもや保護者の不安に配慮している</b></p> <p>不慣れた環境で生活を開始する子どもの不安に配慮するため、入園当初には、2週間を目安に子どもや保護者の状況に応じて設定した期間で、保育時間を少しずつ延ばしてゆく「慣らし保育」を行うことで、無理なく園生活に移行できるようにしている。保護者の不安にも配慮できるよう、入園後1週間、1か月後に面談の場を設けるなどのきめ細やかな対応に努めている。転・卒園する園児には、日頃に取り組んだ制作物を渡すほか、不安なくかつ、移行先への期待感を持てるよう、お別れ会を行っている。</p>	

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 12/12
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
<b>評価項目2</b> 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有している		○非該当
サブカテゴリー3の講評			
子どもに関する発育状況等が定期的に記録され、個人別に管理されている 個人別のファイルを作成しており、「ケアケード(お子様登録書)」等の入園時の情報のほか、予防接種や既往歴、月の健康状況と定期的な健診結果を記録している「健康記録簿」、健康・人間関係・環境・言葉などの項目における子どもの発達の姿の定期的なチェックとその月の子どもの状況をまとめた自由記述の記録、個人面談記録(入園時の1週間と1か月後、入園後に実施)を保存している。また年1回の内科健診を実施しており、その際に保護者に母子手帳を持参してもらうことで、予防接種や定期健診等の更新された情報を把握している。			
全体的な計画や保育指針等を踏まえた指導計画を作成し、実践後の振り返りを行っている 保育所保育指針の内容を踏まえ、保育の全体の計画が作成されている。これをもとに年齢ごとの年間の指導計画を作成し、月や週・日へと展開するとともに、より具体的なねらいや活動内容、配慮事項などを記載し、実践後には評価反省を行ったうえで次の計画に反映させる仕組みとなっている。また長期の計画において子どもの発達の目安を意識しつつ、月・週日といった短期的な計画は子どもの状況に合わせてながら、柔軟な計画策定と保育の実践に努めている。保護者に対しては、園便りを通じ、年齢別の子どもの様子と月の目標を知らせている。			
職員全体で保育に必要な情報を共有し、保護者との連携に努めている 事務所に保育の全体的な計画や年間行事予定、食育計画等を掲示し、職員間で共有するほか、業務報告や利用状況などの書類を事務所に置き、前日までの引き継ぎ事項や当日の子どもの利用時間・スタッフの勤務状況などを確認したうえで、保育に入ることとしている。また送迎時の保護者とのやり取りは「視診表」に記録し、組織内での情報共有と保護者への伝達漏れの防止に努めている。毎月の「センターミーティング」では子ども一人ひとりの情報を共有しており、食事状況や好き嫌い、家庭での様子などについても伝え合い、個別の配慮に活かしている。			

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重			
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	
サブカテゴリー5の講評			
<p><b>子どものプライバシー情報や生活空間などの保障とその配慮に努めている</b></p> <p>窓には外部から見えにくいよう加工が施されており、日常的に子どもたちのプライベートな生活空間を保障している。またオムツ替え等の際にはパーティションを活用してスペースを区分し、人権や衛生面の配慮を行うとともに、ゆったりと個別に関わりながら対応ができるような工夫がなされている。個人情報の利用目的等は保護者に入園時に同意確認を行ったうえで利用することとなっている。これ以外で外部とやり取りが必要となった場合には、内容を明らかにしたうえで保護者の同意を取って対応することとしている。</p> <p><b>さまざまな取組を通じて、人権に配慮した保育の啓発を行っている</b></p> <p>保育士団体の倫理綱領や児童憲章を事務室に掲示し、職員が人権の尊重を意識できるようにしている。園長が子どもへの職員の声かけについて気を配るほか、会議時には園長自身が行った不適切な声かけを職員に伝えることで、職員の気づきにつなげられるようにしている。法人の研修では、今年度すべてのグレードに対して「丁寧な保育」をテーマにした研修が設けられ、食事や排せつ、遊びや身支度などの生活場面における職員の好ましい言葉かけ、好ましくない言葉かけを、事例をもとに学び、実践現場に活かせるよう取り組んでいる。</p> <p><b>園内研修や事例共有などによって、虐待防止に対する見識が深められるようにしている</b></p> <p>職員や保護者の虐待防止等に関わる手順は、系列園共通の手引書「人権と虐待」に定められ、園内研修にて年2回、早期発見や保育者としての適切な子どもへの関わり方等について理解を深める機会を設けている。また区の園長会で行われた虐待防止に関わる勉強会の内容を職員とも共有するほか、毎月のセンターミーティングでは、法人から虐待に関わる事例が共有され、職員の意思継続を図るなど、さまざまな取組を通じて虐待防止に対する職員が見識を深められるようにしている。</p>			

サブカテゴリー6	
6	事業所業務の標準化
サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>5/5</b>	
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点(000)</span>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している <span style="float: right;">○非該当</span>
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点(00)</span>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている <span style="float: right;">○非該当</span>
サブカテゴリー6の講評	
<b>系列園共通の各種の手引書が整備され、本部にて見直しを定期的に行っている</b> 全職員に配付する「社員としての心得帳」「保育の実践」には、系列園共通の保育の理念・方針・目標のほか、身だしなみやマナー、接遇などの社会人・職員としての心得や遵守すべき事項を示している。また安全や衛生面に関わる各種手引書が整備され、事務室に設置するほか、安全や緊急時の対応に関わる手順書は、保育室や事務室に掲示して、常時活用できるようにしている。各種手引書類は、本部のプロジェクトチームが年1回見直しを行うほか、必要に応じて、園単独の手引書を作成している。	
<b>法人や園の研修等を通じて、各種手順を徹底できるよう取り組んでいる</b> 上記の「社員としての心得帳」「保育の実践」については、入職時の研修で学ぶ場を設けるほか、月ごとにテーマを定め、年間計画に沿って実施する園内研修では、適切な保育や虐待防止、個人情報管理、手洗いや嘔吐処理などの各種の手順を確認している。不適切な対応等の項目を設けた自己評価を各職員が行って自戒につなげるほか、集計結果を次年度の行動計画に活かしている。また年1回、法人の監査によるチェックで指摘された事項を是正するなど、各種の取組を通じて定められた各種の手順等を徹底できるよう取り組んでいる。	
<b>保護者の意見等や職員間の話し合いによって、改善をしている</b> 保護者の意向や要望は、園に設置する意見箱や送迎時の保護者との会話、アンケートなどから把握し、園運営や保育等の見直しに活用している。満足度やプライバシー保護、環境や子どもへの関わり方などの質問項目を設けた利用者アンケートを、福利厚生室(厚生労働省)が年度末に行っており、寄せられた声をもとに、計画にも反映しながら積極的な散歩に取り組んでいる。また園内では栄養士や保育士の話し合いによって、子ども一人ひとりの適切な介助を行えるようにするなど、職員間の話し合いによって改善が行われている。	

II サービスの実施項目(サブカテゴリー4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
		37 / 37	
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(00000)・非該当1	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
○あり ○なし	6. 【5歳児が利用している保育施設のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている	●非該当	
評価項目1の講評			
<p>子どもたちの生活や遊びが、豊かで安全なものとなるよう、環境面の工夫を行っている</p> <p>保育室はワンフロアの空間を可動式のパーティションや棚などで区切り、食事・遊び・睡眠などそれぞれの生活や活動を保障できるようにしている。また棚にはパズル・ブロック・絵本・知育玩具のほか、手作りの玩具や人形等の見立て遊びができるものなどを準備し、子どもの手の届く位置に配置することで、興味・関心を持ったものを手に取れるよう工夫している。その他、マットのスペースを設けたり、棚にクッション材をつけたりと安全面に配慮しつつ、子どもの年齢や発達に応じてハイハイやつかまり立ち、歩行などがしっかりとできるようにしている。</p> <p>子どもの興味・関心を引き出す工夫を凝らし、さまざまな活動ができるようにしている</p> <p>室内ではトンネルや台などを設定し、動的な活動ができるようにするほか、手作りの箱に入ったり出たりして乗り物や家に見立てたり、大人とのやり取りや絵本の読み聞かせなどを楽しんでいる。朝のお集まりでは、子どもたちが椅子に座って一同に会す時間をなっており、大人と一緒に挨拶や名前呼び、歌を歌ったりするほか、状況によってリズム遊びや楽器遊び、色・数字・野菜の絵カードなどの活動を織り交ぜている。また当日のメニューで提供される食材を持ってきて、子どもが実際に触れたり、匂いを嗅いだりして食への関心が高まるよう工夫している。</p> <p>一人ひとりの状況に合わせた配慮や、他者との関わりへの支援に努めている</p> <p>個別の配慮が必要な子どもに対しては専門機関や区の巡回相談員との連携を図り、助言を得たり、他の機関とつなげたりして、その子にとって最適な支援を検討することとしている。また会議で子どもの状況を伝え合い、担任のみならず、他の職員も同じような配慮・支援ができるよう、情報共有を図っている。低年齢の子どもたちが過ごす中では、自他の違いや他者の存在を知る機会ともなっており、言葉のやり取りを大人と一緒に重ねるほか、少人数の集団ならではの体験も得られようとしている。</p>			

2 評価項目2		評点(〇〇〇〇)
子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息・午睡等の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p><b>送迎時の会話や連絡帳などを通じ、子どもの状況や日々の変化を伝え合っている</b>                  送迎時のコミュニケーションを図っており、伝え聞いた内容や子どもの体調・健康状態などの視診の情報を「視診表」に記録し、職員間で共有するほか、日中の園での状況や保護者への伝達事項も同表を活用することで、漏れのない伝達に努めている。またその日の様子や健康面の変化などについてはお迎え時に保護者へ直接伝えることとしている。その他、「デイケアノート」(連絡帳)を通じて、子どもの生活リズムや食事・排せつ・睡眠などの状況、子どもの様子や伝達事項などを、保護者と園とで伝え合っている。</p> <p><b>子ども一人ひとりの発達や意欲に沿って、生活面の自立に向けた援助を行っている</b>                  子ども一人ひとりの発達や意欲などをとらえ、個人別の計画と記録を定期的に行いながら、それぞれの生活面の支援にあたっている。年齢にもよるが自分で身の回りのことに少しずつ取り組めるよう、着替えや食事などに一緒に手伝いながら意欲的に取り組むことを支援しており、靴下や帽子などははけた時には大人が褒めたり、食事でも一口でも食べられた時に一緒に喜んだり、次につながるような声掛けを心がけている。またトイレトレーニングの際にはまずトイレの空間に慣れ、便座に座ってみることから始めるなど、子どもに無理のないよう取り組んでいる。</p> <p><b>年齢・月齢や生活リズムなどの違いを考慮し、休息の時間と場所の保障に努めている</b>                  子ども一人ひとりの生活リズムやその日の体調などに応じ、大人が抱っこしたり、ベビーラックや寝るスペースを準備したりして、午前寝や夕寝など適宜休息がとれるようにしている。訪問調査当日にも午前の時間帯において、子どもが保育者に抱っこされ、眠りについている様子がうかがわれた。また早めに起きた子どもには再度入眠できるよう、大人がトントンしたり、子どもの状況によっては寝る場所を変えて静かに眠れるような配慮するほか、保育者と一緒に他のスペースでそれぞれに過ごせるよう、個別の対応を行っている。</p>		

3 評価項目3		日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価		標準項目			
●あり ○なし		1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当	
●あり ○なし		2. 子どもが人と関わる力を養えるよう援助している		○非該当	
●あり ○なし		3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○非該当	
●あり ○なし		4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○非該当	
●あり ○なし		5. 子どもの心身の発達が促されるよう、戸外・園外活動(外気浴を含む)を実施している		○非該当	
●あり ○なし		6. 生活や遊びを通して、子どもが自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○非該当	
評価項目3の講評					
<p>会話や絵カードなどから言葉に触れたり、大人や子どもとのやり取りを行ったりしている</p> <p>子どもの言葉への感覚を養えるよう、日頃の大人との会話や絵本の読み聞かせのほか、数字・野菜・色・果物などの絵カードを用い、保育者の発音した後に続けて子どもたちが声に出したりしている。また日々の活動の中で「ちょうだい」「みて」「ありがとう」など、大人が仲介したり、一緒に声を出したりしながら、少しずつ言葉で伝える経験を重ねるほか、一人で難しかったことや、他の子どもとのやり取りで思い通りにいかなかったことなど、自分の思い通りにならない時には大人が見守り、時には気持ちを切り替えられるような声かけや援助を行っている。</p> <p>日々の保育の中で、音楽・制作などのさまざまな活動を採り入れている</p> <p>日々の保育ではゆったりと安心して過ごせるよう、職員の膝の上で絵本を見たり、歌を聞いたりしながらリズムに合わせて身体を揺らしたりしている。またお絵描きをしたり、絵の具・のり・スポンジなどに触れながら大人と一緒に制作に取り組んだりするほか、リトミックや体操を行って身体を動かしたり、ハイハイやボール転がしなど室内のスペースを活用した活動も行われている。その他にも年齢によって紐通しを提供し、遊びを通じて指先の発達を促すほか、カードゲームで物の判別や簡単なルールの理解の初期段階へとつながるようにしている。</p> <p>身近な環境や季節ごとの変化などを感じ、見たり触れたりする遊びも行っている</p> <p>散歩の際には子どもたちがバギーに乗ったり、発達によって少し歩いたりしており、戸外で季節ごとの風や気温の変化を感じたり、大人とのやり取りや声かけをしながら周囲の物や人への関心を持てるようにしている。また散歩を通じて子どもたちが自ら手をつないで歩こうとする姿もみられている。館内の1・2階や中庭等を回って気分転換を図るほか、中庭や公園ではシャボン玉を見たり、追いかけてたりして楽しんでいる。また季節によっては落ち葉やどんぐりなど自然物に触れるほか、夏の時期には水遊びや氷・寒天・スライムなどの感触遊びを採り入れている。</p>					

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事は日頃の遊びを採り入れ、親子で楽しみ、その雰囲気を知ってもらう機会としている</p> <p>低年齢児の園であるため、子どもに負担なく、いつもと同じような形にして日頃楽しんでいることを保護者に見てもらえる機会を設けている。「運動会ごっこ」では参観月間を設けることで、感染防止に配慮しながら少人数で保護者に参加してもらえるように工夫している。子どもたちがリズムにあわせて体操をしたり、トンネル・階段・一本橋などで自由に身体を動かしたりするほか、楽器を持って、音に合わせて身体を動かたりする様子を保護者が見たり、一緒に楽しんでもらったりするなど、保護者に日常の様子や雰囲気を感じてもらっている。</p> <p>季節や文化など一年間のさまざまな行事に、子どもたちが歌や絵本などで親しんでいる</p> <p>年度当初に行う「ふくろうなかよし会」では名前呼びをしたりして友だちや職員を紹介し、歌や絵本の読み聞かせを楽しんだり、プレゼントを渡したりして、一緒に過ごす保育者を知り、ともに楽しい時間を過ごす機会としている。また子どもの日や七夕、お月見十五夜などの季節ごとの行事があり、パネルシアター（布のパネル上で行う紙人形劇）や絵本の読み聞かせなどで由来を伝えたり、関連した歌や制作などで親しんだりしている。また「七夕なつまつり」では子どもと保育者で画用紙にスポンジや指を使ってスタンプをしながら天の川制作に取り組んでいる。</p>		

5 評価項目5 在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 在園時間の異なる子ども同士が楽しく遊べるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 在園時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 在園時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>子どもの状況に合わせた保育を行い、ゆったりと落ち着いて過ごせるよう配慮している</p> <p>子どもの発達やリズムなどの違いがあることを踏まえ、一日の活動や子どもの姿などを考慮し、活動内容や予定を柔軟に変更しながら保育を行っている。夕方の時間には夕食を提供しており、遊びと食事のスペースを区分して落ち着いて食事を摂ったり、思い思いに過ごせるようにするほか、適宜水分補給をとったりするなど、穏やかな空間と時間の設定も心がけている。また子どもたちが疲れた際にはゴロゴロとしてゆったりと過ごすほか、大人と一緒に静かに遊んだり、膝の上ののって絵本を読んだり、日中と変わらずに落ち着いて過ごせるように配慮している。</p>		

6 評価項目6 子どもが安全な環境のもと食事を楽しめるよう配慮している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが安全に食事をとれるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	5. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>家庭と園とで連携しながら、個別の状況に合わせて離乳食の進行段階を進めている</p> <p>子どもが初めて経験する食材は家庭で2回以上試してもらったうえで園での食事を提供しており、「食材チェック表」をもとに家庭との連携を図りながら、食材の進行と子どもの嚥下・咀嚼の状況を家庭や園での状況を伝え合い、家庭の意向にも沿いながら無理なく進めている。また離乳食進行表に初期から完了期、幼児食までの食事段階について個人の状況を記載し、室内に掲示して組織内での情報共有を図るほか、食事の食べ具合は保育者のみならず、栄養士も確認しており、その子の状況の把握と今後の段階の進め方等の参考としている。</p> <p>落ち着いた空間の中で、子どもたちが安心して意欲的に食事が摂れるようにしている</p> <p>安全面を考慮して主なアレルゲンとなる食材を除いた「なかよし給食」を実施し、郷土食や行事にちなんだメニューを採り入れている。また出汁を基本として素材の味を活かして調理し、子どもの食べ具合を栄養士が確認したうえで次の提供時の参考としている。午前しっかりと遊び、お腹を空かせてから食事をすることが日課となっており、手掴み食べから徐々に食具を持ちたり、口に運べるように介助したりして、食べる意欲を尊重した援助に努めている。また個別の体格等を踏まえ、背当てクッションや足置き台を準備するなど落ち着ける環境も整えている。</p> <p>日々の食事が楽しみとなり、食材や食べることへの関心が高まるような活動を行っている</p> <p>毎月、食にちなんだ活動を採り入れており、さまざまな工夫を凝らしながら、子どもが食べることへの興味や関心が高まるようにしている。子どもたちには食事の挨拶の仕方と食事への感謝の気持ちを示すこと、よく噛むことなどを知らせ、その後の食事の際につど伝えたりするほか、絵本やカードなどを用いて季節ごとの旬の食材の紹介をしたり、実際に見て触れるといった経験が得られている。時には野菜の匂いを嗅いだり、切った野菜の断面を観察したりするとともに、さまざまな形を楽しみながらスタンプ制作に取り組んだりしている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの入退所により環境に変化がある場合には、入所している子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している	○非該当
評価項目7の講評		
<p><b>病気予防やケガ防止を年齢に応じた方法で意識できるようにしている</b>  0～2歳児を保育する本園では、声かけや保育者が寄り添って援助するなどの年齢に応じた方法で、日々の生活の中で手洗いを促し、習慣づけられるようにするとともに病気予防を意識できるようにしている。また散歩や遊ぶ前には、保育者からの注意喚起の声かけをしたり、毎月の行う避難訓練では、避難時のポーズや約束ごとが体験を通して身に付くようにする等、子ども自ら安全を意識し、ケガを予防できるようにするほか、子どものケガを防げるよう職員が環境面の配慮に努めている。</p> <p><b>職員や嘱託医等が連携しながら子どもの健康の維持管理を行っている</b>  日々の子どもの健康状態は、登園時に職員が行う健康観察のほか、保護者からの口頭伝達や連絡帳などから把握し、特記事項があれば視診表に記入して、その日の配慮に活かしている。子どもの健康については嘱託医と相談できる体制にあるほか、嘱託医の各種検診によって定期的に子どもの健康状態を確認し、家庭で必要な処置がとれるよう、結果は保護者に報告している。医療的なケアが必要な場合は、家庭経由でかかりつけの医療機関からの助言などの情報を入園時の面談等で確認し、個別の配慮に活かせるようにしている。</p> <p><b>各種の保健情報を提供し、保護者と連携して子どもの健康を支援できるようにしている</b>  入園時の説明では、体調面による登園や感染症などの保健に関わる園からの依頼事項のほか、行政のパンフレットを活用してSIDSの説明を行っている。園便りに保健コーナーを設けるほか、必要に応じて保健便りを別途発行し、季節に応じた感染症や留意事項を保護者に提供している。また区の看護師が作成する保健便り等の発信物を掲示し、園児が感染症に罹患した場合は、発生状況の園内掲示によって保護者の注意を喚起し、蔓延防止に努めるなど、各種保健に関わる情報提供によって保護者とともに子どもの健康を支援できるようにしている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、保育施設の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p><b>保護者の個別事情に応じた配慮に努めている</b></p> <p>保護者の個別の事情は、入園後の希望制の面談や登降園時の保護者との会話などから把握するようにしている。登降園時には、保護者との会話を図り、相談や話しやすい雰囲気づくりに努め、相談ごとには必要に応じて面談の場を設けて対応することとしている。保護者の就労事情による、突然の延長保育の利用には、当日の連絡で対応するほか、夕食提供については、前日までの利用申し込みであれば園で対応し、当日の申し込みの場合は、保護者が持ち込む夕食を受け入れるなど、保護者の個別の事情に応じた配慮に努めている。</p> <p><b>信頼関係の形成の一助となるよう、園の取組や子どもの様子を発信している</b></p> <p>降園時には、子ども一人ひとりの様子を伝えるほか、園の取組等を説明する機会としている。また子どもを受け渡す玄関では、年齢ごとの本日の活動、食育の活動や行事の様子の写真を掲載した壁新聞を掲示し、日頃の子どもの様子を伝えている。また給食のほか、離乳食の各段階の形態がわかるように当日提供する給食の写真を掲示している。園便りでは、年齢ごとの子どもの様子や戸外活動の取組を紹介するなど、各種の掲示や発信物を通じて、保護者に園の取組や子どもの様子の共有に努め、保護者との信頼関係の形成の一助となるようにしている。</p> <p><b>保護者同士の交流や養育力支援の機会となるよう、行事への参加を促している</b></p> <p>コロナ禍以前には、保護者が参加する行事では、保護者同士の交流の機会となっており、参観後に行われる懇談会では、育児の悩みを共有し、意見を交換する機会を設け、子育ての一助となるようにしていた。昨年度からのコロナ禍により、今年度は参観月間を設け、家庭ずつが運動会ごっこを見学できるよう工夫している。また、参観や日々の会話を通じて子どもの成長などについて共通理解が深まるようにしており、年間の行事計画の配付や園便りへの行事予定の掲載、個別のお知らせの発行などによって保護者に行事への参加を促している。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 保育施設の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>周辺環境を活かし、身近な場所の散歩と人との関わりなどが行われている</p> <p>周辺環境を活かし、日比谷公園の噴水広場で遊ぶほか、館内の1・2階や中庭を回って気分転換をしたり、大人と一緒に警備の方と挨拶を交わしたりしている。ハロウィン散歩として地下1階から日比谷公園まで出かけ、通りすがりに出会った方に大人が挨拶をする姿を見たり、少し子どもが話そうしたりという姿が見られるほか、地下のお店屋の方にクッキーをもらったりして職員以外の人との関わりを持てる機会となっている。またいつもと違って少し足を延ばし、系列園まで訪れることも行われている。</p>		

Ⅲ 利用者保護に関する項目

利用者保護に関する項目		標準項目実施状況	8/9
1 評価項目1 利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点（〇〇）	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
2 評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点（〇〇）	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
3 評価項目3 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点（〇〇〇〇●）	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している		○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		○非該当
利用者保護の講評（※利用者保護の内容から3つ（必須）記載してください）			
<p>苦情解決制度を整備し、保護者の要望等を把握する仕組みを整えている</p> <p>苦情相談窓口については、「利用のご案内（重要事項説明書）」への掲載と入園時の説明で保護者に伝えるほか、苦情相談窓口を掲載した書面を園内に掲示している。意見箱を設置し、保護者からの苦情や要望を受け付け、寄せられた要望等は、必要に応じて本部と相談し解決を図ることとしている。厚生労働省が年度末に行うアンケートでは、その結果を園にも共有され、改善の参考としている。園では登降園時の保護者との会話を心がけることで、話しやすい雰囲気づくりに努め、保護者からの相談や要望等を受けられるようにしている。</p> <p>手引書を整備し、研修等を通じて保護者や職員による虐待防止に努めている</p> <p>系列園共通の手引書「人権と虐待」には、虐待の定義、早期発見から通告、関係機関との連携などの手順が示され、職員は子どもの受け入れ時や着替えの折の視診などから早期発見に努め、兆候を察知した際は関係機関への通告と連携する仕組みとなっている。また、同手引書には職員としての虐待行為の禁止事項などが示されるほか、保育士団体の倫理綱領や児童憲章を配付する手引書への掲載や園内掲示、本部からの事例共有や園内研修などによって、職員による虐待行為の排除できるよう職員の啓発を行っている。</p> <p>各種リスクを想定した訓練や研修を行い、再発防止にも取り組んでいる</p> <p>各種リスクを想定して対応手順を定めた手引書を整備するとともに、各種訓練や園内研修を行い、リスク発生時に対応できるよう取り組んでいる。地震や火災を想定した避難訓練を毎月実施し、不審者侵入を想定した訓練を年2回行っている。また、緊急事態に対応できるよう毎月異なる場面を想定したAED・心肺蘇生法の訓練を行っている。園内研修では、保健衛生や安全面のほか、個人情報の管理などの手順確認を行い、職員への啓発を行っている。園内の事故やケガ、ヒヤリハットの収集に努め、再発防止にも取り組んでいる。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	子どもたちの日々の生活がより豊かなものとなるよう、活動内容等の工夫をしている	
内容①	館内の1・2階や中庭などの環境を活かして気分転換を図り、季節ごとの自然に触れ、その変化を感じられるようにしている。また子どもたちがさまざまなことへの興味や関心が持てるよう、歌やリズム遊び、音のなる玩具や楽器などの遊びを採り入れるほか、色・数字・野菜などの絵カードを見せて大人が名称を伝えつつ、日頃の生活の中で子どもが出会う身近なものへの親しみを深めている。さらに季節ごとの行事の際には歌や絵本の読み聞かせのほか、職員が行うパネルシアター（布の台のうえで行う紙人形劇）を見たり、簡単な制作に取り組んだりしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目		
タイトル②		
内容②		

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	食への関心を高める活動を行いながら、日々の食事が落ち着いて安心して食べることができるような工夫と配慮に努めている
	内容	みんなで安全に食べられるよう、主なアレルゲンの食材を除いた「なかよし給食」を実施しており、旬の食材を用いて出汁を活かした食事を提供し、郷土食や行事にちなんだメニューも採り入れている。食事・遊びなどの場所を区分し、子どもの体格に合わせた椅子とクッション・足台などを準備し、ゆったりと食べられる環境を整え、個々の意欲を尊重しながら食べることが楽しい時間となるような援助に努めている。また朝の時間に野菜や果物等の絵カードを見せたり、当日提供される食材に触れ匂いを嗅いだりするなど、食への関心が高まるよう工夫している。
2	タイトル	さまざまな遊びとゆったりとした生活ができるよう環境面を工夫し、少人数の中での一人ひとりに応じた細やかな配慮と保育実践に努めている
	内容	保護者と園との連携を図りながら、子ども一人ひとりの発達や意欲などをとらえ、生活面の援助を行うほか、少人数での保育ならではの細やかな声かけと子どもの思いに寄り添った支援に努めている。室内ではワンフロアの空間を可動式のパーティションや棚などで区切り、食事・遊び・睡眠などそれぞれの生活や活動を保障できるようにしている。その中では安全性に配慮しながら、ハイハイやつかまり立ち等をしたり、大人の見守りのもとで絵本や好きな遊びにじっくりと取り組めるようにするなど、一人ひとりに合わせた柔軟な保育展開を行っている。
3	タイトル	年間計画に沿った園内研修や訓練を通じて、手引書に定められた各種の業務手順を実践現場で徹底できるよう取り組んでいる
	内容	園では、年間計画を策定し、適切な保育や虐待防止、個人情報管理、手洗いや嘔吐処理、水遊びなどの月単位で定めたテーマに沿った園内研修を行い、各テーマについての手順の確認や理解を深めることに取り組んでいる。また同様に年間計画を策定し、毎月異なる場面を想定したAED・心肺蘇生法の訓練を行い、緊急事態に職員が対応できるようにしている。年間計画に沿った研修や訓練を通じて、手引書に定められた各種の業務手順を実践現場で徹底できるよう取り組んでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	園の安全面のさらなる強化に向けたBCPの策定や収集するヒヤリハット等の基準の明確化などの安全対策に期待したい
	内容	園内では、事故に至らない、いわゆるヒヤリハットの収集に努め、将来の大きな事故を未然に防止できるよう取り組んでいる。ただ、収集したヒヤリハットについては、事故・ケガに相当する内容が含まれており、事故・ケガ・ヒヤリハットの区分けを課題とし、今後その基準を明確することとしている。また、各種訓練や園内研修を通じて緊急時に対応できるよう職員の研鑽を行っているが、自然災害等に対応するためのBCP(事業継続計画)の策定については、継続した課題としている。園の安全面のさらなる強化に向けた今後の取組を期待したい。
2	タイトル	苦情解決制度の仕組みに関する認知度の向上に向けた今後の取組に期待したい
	内容	入園時には、「利用のご案内(重要事項説明書)」に苦情相談窓口を掲載して説明するほか、重要事項の抜粋版「施設の概要」を掲示して、その周知に努めている。さらに園内に意見箱を設置して、保護者からの苦情や要望を受けられよう取り組んでいる。ただ今回の第三者評価を受審するにあたり、保護者に行った利用者調査の結果では、その認知度は50%にとどまっており、課題として捉えている。本制度の認知度の向上に向けた今後の取組を期待したい。
3	タイトル	
	内容	